

# まちのわだい



## 市内の夏まつり盛大に

市内の3地域において、恒例の夏まつりが開催され、帰省中の人々や地域のみなさん、観光客らで、賑わいました。

8月15日は、「大屋ふるさとまつり」が大屋地域局前で行われました。今年は、大屋中学校生徒が地域社会で活躍するための活動の一つとして、準備から積極的に参加し、主体的に地域の人々とふれあいを深めました。翌16日、養父地域局周辺で行われた「やぶふるさとまつり」は、好天に恵まれ、約15000人の来場者がおり、会場では、ステージイベントや夜店で楽しむ人たちで熱気に包まれました。25日には、ほのぼのとした雰囲気のなか、「関宮ふれあいまつり」が開催され、但馬の夏祭り最後の花火大会で盛り上りました。



おにいちゃん、がんばれ！（やぶふるさとまつりにて）



魚つかまえたよ！と、うれしそうな子どもたち

## 魚つかまえたよ！

### 高中川でつかみどり

「夏休み子ども大集合」が、奥米地ほたるの館前広場で、8月19日開催されました。

このイベントは、養父校区自治協議会主催で毎年行われ、校区の子どもたち約70人が参加しました。

猛暑の中、会場では、はがきやチラシを使って紙飛行機をつくり、「すっ飛び飛んだ！」と喜びながら広場を走り回る子どもたちの声が響いていました。

また、マスのつかみどりに参加した子どもちは、必死になつて追いかけつかんだ魚を両手で握りしめ、「つかまえたよ！」とうれしそうに歓声をあげていました。



贈り物に喜ぶ子どもや職員の皆さん

## 乳児院に但馬の水を届ける

8月23日、神戸市灘区にある社会福祉法人信愛学園御影乳児院に飲料水が届けられました。

養父市上箇に設立した（株）サン・ウォーターが、創業記念事業として、地下200㍍から沸いたミネラル分豊かな水、『非加熱 但馬天然水』100ケース（2400本）を、神戸新聞厚生事業団を通じ、寄託したものです。神戸乳児院連盟理事長である同院長は、「ほかの乳児院にも配り、子どもたちに、おいしく体に良いお水を飲ませて残暑を乗り越えます」と思ひぬ贈り物に感謝していました。

同社の三木克彦担当取締役は、「子どもたちへ採水地から直接届けました。但馬のミネラルウォーターを飲んで元気に健やかに育つて欲しい」と話していました。

## 消防広域化協定書調印式



大杉さんざこ踊りをPRするのぼり旗

## 大杉さんざこ踊り PR のぼり旗新調

毎年、大屋町大杉の二宮神社で奉納される大杉さんざこ踊り。これに先立ち、この踊りをPRしようとのぼり旗が新調されました。

こののぼり旗は、おおやアート村ビッグラボで働く、小松崎紀子さんがデザインし、2種類製作されました。のぼり旗は、周辺道路や参道などに100本が設置されました。

大杉区の正垣区長は、「のぼり旗は、宣伝だけでなく、みなさんがさんざこ踊りに対して思つてもらう大きなきっかけになつた」と話しました。大杉さんざこ踊りは、子ども12人を含め、42人の地域住民の歌い手踊り手により賑やかに奉納され、多くの観客が見守っていました。



「養父市及び朝来市消防広域化協定書」に調印

8月22日、朝来市役所において、「養父市及び朝来市消防広域化協定書」が調印されました。

協議会は、災害等の大規模化、多様化に対応するため、平成18年6月に施行された消防組織法の規定に基づき、広域化による消防体制の整備を進めています。本年7月、主要18項目の調整が整い、協定書の調印となりました。

広瀬市長は、「それぞれの消防本部単位で動くよう2つの消防本部が一体化して動くほうがより効率的、効果的に消防活動ができ、市民の安全安心が確保できる」と話しました。  
養父市および朝来市消防本部は、来年4月より南但消防本部として消防・防災活動を行います。

最近、ある市民と後継者について話をしました。少子化と高齢化が進み人口が自然に減少する、高校を卒業すると勤めや学校へ行くため若者が出てしまう。このことにより養父市の人口と次世代を担う若者が少なくなり、まちの元気が段々になくなってきている。「若者定住を進めるための働く場所の確保、住む場所の確保、安心できるお産の確保、子育て支援の充実などの施策に取り組んでいる」また、「子どもたちには養父市の持つ素晴らしい生活や文化・伝統、自然などを伝え、故郷に誇りと自信を持つとともに一体感を培う子育てと教育を行っている」というような話をしました。

その方は、「確かにそのことは大切なことですはあるが、それだけでは養父市に子どもたちは帰つてこない」。理由は、子どもたちに帰る気持ちがあつても肝心の親が『帰つてこい、生まれた所で親と一緒に住み、地域を守ることが大切なことなのだ』と言つていよい。「子どもを帰すためには、まず親の教育が先決である」と話されていました。

確かにうなづけることであり、たとえ働く場所や住む場所があつても親が自分の地域や生活に自信と誇りを持っていなければ子どもたちを帰すことは出来ない、まさしくその通りと感じました。I・J・Uターン、いずれにしても若者が定住するは、大人が良い見本を示さなければなりません。

皆さん一緒になり子どもたちに誇ることが出来る養父市をつくりましょう。

## 拝啓 市民の皆様

市長 広瀬 栄